

「祈りなさい」 後宮敬爾 牧師 スカウトサンデー 礼拝説教 2022年2月20日
ヤコブの手紙5章13～16節

スカウトサンデーについて

今日はスカウトサンデーです。スカウト運動の創始者、ベーデンパウエルの誕生日2月22日に近い日曜日に、霊南坂教会は、このスカウトサンデーという礼拝を守っています。

ヤコブ書について

今日の聖書は新約聖書のヤコブの手紙です。

この手紙の内容を分かりやすくいうと、ことばだけではなくて、実際に行動しましょう、特に隣人への愛を実際に行うことが大切です、と呼びかけになっています。

スカウトの誓いとヤコブの手紙

スカウトには、大切なスカウトの誓いというのがあります。

私は名誉にかけて、次の三条の実行をちかいます

一、神(仏)と国とに誠を尽くしおきてを守ります

一、いつも他の人々をたすけます

一、からだを強くし心をすこやかに徳を養います

それとヤコブの手紙は似ていると思います。

苦しい時にどうするか

さて、聖書の、最初の言葉を見てください。

そこには、「あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。」と書かれてあります。

皆さんは苦しいことがあった時、どうしますか？泣きますね。元気がなくなって落ち込みますね。それからぶつぶつと不平を言いますね。それでおさまらなかつたら、わざと騒いだります。でも、聖書は苦しいことがあった時、お祈りをしなさいというのです。

祈りなさい

お祈りをしても、現実には、何の効果もないのではないかと思いますか。

中野信子という脳科学者が「祈ることは脳科学的にも効果がある」と言っています。祈る時、幸福を感じたり、安心を感じたり、前向きに物事を捕らえることできる脳内快感物質が分泌されるのだそうです。ただし、それには条件があって、良い内容のお祈りをしたときです。お祈りすることで、自分の心と向き合えることも良いことの一つだそうです。

では、どうしてお祈りをすると脳がそういう反応をするのでしょうか。それは太古の昔から、人はあれ狂う自然の驚異や疫病の猛威に晒された時、ひたすら祈り続けてきました。科学や医学が発達し多くの不安を克服してきた今日でも、その祈りを続けています。それは人間みんなの心の中に、神を求める気持ちがあるからだと思うのです。

ベーデンパウエルも「スカウトはどんな困難なもとでも、微笑みを浮かべ、口笛を吹く」と言っていますね。困った時こそ、微笑むのです。そして、神さまにお祈りをするのです。そうしたら、きっと、神さまが備えて下さっている道が見つかるのです。

嬉しい時にどうするか

もう一つ、嬉しい時のことを考えましょう。喜びますね。そして、自慢したくなります。僕ってすごいとか、わたしてすばらしいなど、自分を誇ってしまうのです。

聖書は、嬉しい時は、神さまに感謝をしなさいと勧めるのです。それは、嬉しい時も、辛いと思うことも、実は、神さまが与えて下さると信じているからです。

嬉しい時に、自分がすごいからこんなふううまく行ったのだと思ったとしましょう。でも、人生、ずっと良いことばかりある人など一人もいません。いつか、思い通りにならないことや、思いもよらない苦しいことに出会うのです。

その時、自分が悪いと責めるのでしょうか。自分が悪いと認めることができなかつたら、他の人が悪いと決めつけてしまうほかないのです。そんな人の人生は、不平と不満だらけで、幸福になるはずありません。

でも、嬉しい時に神さまに感謝した人は、苦しい時にも祈ることができます。祈ると前向きに苦しいことに向き合う力が出てきますから、このことも意味のあることだと信じていることができます。だから、ベーデンパウエルがいったように苦しくても、口笛を吹いて、微笑むことができるし、賛美の歌を歌えるのです。

互いのために祈りなさい

そして、今日、覚えて欲しいことがあります。

お祈りすることは、とても素晴らしいことです。その素晴らしいことを自分のためだけに用いるのでは不十分なのです。お友だちのためにお祈りしましょう。家族のためにお祈りしましょう。今、苦しい人たちのためにお祈りしましょう。

ヤコブさんは、教会の人たちに「互いのために祈りなさい」と伝えました。それが、友だちを元気にすることになります。家族を励ますことになります。そして悲しんでいる人を慰める力になるのです。

嬉しい時も、悲しい時も、お祈りをする事、お友だちが喜んでる時も、泣いている時も、一緒にお祈りをする事、それこそが、神さまの求めていることなのです。

スカウトの誓いにもありますね。

「いつも他の人々をたすけます」

霊南坂スカウトの皆さまが、神さまに守られ、自分らしく生きて、隣人と共に生きるような人生を歩まれるように、お祈りをいたします。

